

令和4年度 草津市障害児（者）自立支援協議会 研修会次第

令和5年1月20日（金） 草津市役所8階大会議室
午前9：30～11：30

開会 あいさつ

1. はじめに

- (1) 地域生活支援拠点整備事業とは
- (2) 研修会事前アンケートの概要
- (3) 体験談
 - ・相談員の立場から
 - ・事業所の立場から
 - ・医ケア児の家族の立場から
 - ・精神障害者の家族の立場から

2. お話：先進地の実践紹介

【テーマ】「甲賀地域ならではの」の地域生活支援拠点等の整備

サブテーマ

『わがまちにあったらいいな。地域生活支援拠点等の整備とは？』

～先に始っている甲賀圏域の取り組みを聞いて、イメージしてみよう～

【講師】 甲賀市・湖南市障がい者基幹相談支援センター所長 菅沼敏之氏

質疑応答

閉会

(次回案内)

令和4年度 草津市障害児(者)自立支援協議会の今後の日程(案)

(第86回定例会議) 令和5年3月20日(月) 9:30～11:30 草津市役所8階 大会議室

『テーマ：発達障害者の理解と支援等(仮)』

【草津市障害児（者）自立支援協議会構成機関への事前アンケートから抽出した代表的な質問】

質問①

緊急の介護体制が必要になった時に、どのような流れで、誰が調整をするの？

質問②

緊急の対応が必要になった時、今までかかわりなかった利用者の受け入れや対応はできるの？

質問③

日頃支援に入っていない利用者の受け入れにはどのような工夫をしているの？

質問④

緊急対応をする職員の派遣調整は誰がするの？



質問⑤

緊急対応してくれる事業所はどのようなところ？
自宅への訪問もあるの？

【アンケート回答者の所属】

- ・相談支援事業所（12人）
- ・通所施設（児童含む）（11人）
- ・ヘルプ事業所（3人）
- ・入所施設・グループホーム（3人）
- ・その他（3人）
- ・家族（2人）
- 計 34人

問1：家族等の緊急事態で利用者の方への緊急対応が必要となったことはありますか？

- ある（20人）
- ない（25人）（質問や意見の全くなしの方：21人）

（あると答えた方は、どのような緊急状態でしたか？）

- 介護者の病気等
- ・母（主の介護者）の緊急入院時、体調不良（医療ケア児の保護者含む）（9人）
- ・母が骨折、緊急手術、長期入院となる。母との二人暮らし。
- ・母親が緊急入院し、父親の仕事の都合もつかず、児を見る人がいない状況。放デイが児の短期入所施設を探して手配した。
- ・海外で父が倒れ、手術の承認や付き添いのために母が行くことになり、子ども一人が家に残された。
- ・家族の緊急入院時や予定時間に帰宅ができなくなった。
- ・家族が緊急入院になり、自宅での生活が困難になった。
- ・強度行動障害のご利用者並びに利用者本人がコロナ陽性となられた時（2人）
- ・介護者がコロナ陽性になった時（6人）
- ・感染者の有無を確認するために、PCR検査を実施したところ、このことを知った休日支援事業所が受け入れを止めた。家族が仕事のため、介護ができずヘルプも取れないため、当事業所が休日開所し、その人だけを日中一時で受けた。

問2：あると答えた方はその時に【困ったこと】は何ですか？（複数回答可）

- (1)緊急対応の過ぎしの場所（14人）
- (2)短期入所先の調整（13人）
- (3)在宅へのヘルパー等の派遣による介護の調整（9人）
- (4)相談員等との緊急連絡（8人）
- (5)日中活動の確保や送迎の課題（7人）
- (6)その他（5人）

【支援者側】

- ・(緊急時の対応は) 事前に情報や面識のない方の対応をするのには不安を感じる。ふだんから知り合っていると対応しやすい。
- ・緊急な対応の事例が起こった時に各支援者が集まったものの、意見が分かれてまとまらなかった。対応をし始めても一事業所の負担が大きかった。
- ・家族からのクレーム対応
- ・食事等日常生活の確保
- ・短期入所させてもらった後の短期入所先との日常支援の細かな連絡調整の方法等の確認

【コロナなど感染症】

- ・本人がコロナで自宅待機。家族は仕事の時に受け入れ先探し。(通所事業所が対応してくれた)
- ・定期処方を受け取り (→訪問看護で対応してもらえた)、電話での受診調整。
- ・コロナかもしれないときの通院同行をどうするのか？
- ・在宅独居利用者が陽性になり、在宅無理になった時の対応



【緊急時の連絡・家族の声】

- ・母の緊急入院直後に既存の支援先が融通を効かせて支援体制を組めたが、コロナ感染拡大で学校が休校になった。学校の休校決定が金曜日で、相談支援先が土日は対応できないとのことで入院先から母が放課後等デイサービス、居宅事業所等と連絡を取り、週明けから子供の支援体制を組むことになった。現在も休日の対応や緊急時の連絡は市役所当直室になっているが、担当ではないため、連絡しにくく、頼るところがなく申し訳なく感じる。
- ・ヘルパーに支援を依頼しようとしたが、事業所を探すのが大変だった。利用できなかった。短期入所先(医ケア見は、びわこ学園受診であれば考えてくれるが、歩ける重度の子は預け先がない)
- ・短期入所先でのトラブル対応が不安(困る)。

問3：今回の研修会の講師(菅沼氏)に対して聞きたいことはありますか？

- ・緊急支援が入った時の支援者の手配の仕方。
- ・緊急時の受け入れ先の調整の仕方。
- ・緊急時の対応を実施するにあたり、事前準備等の具体的な取り組みは何ですか？
なかでも、難しかった事や苦労されたことはなんですか？
- ・衣食住の支援は必須であるが、(緊急対応時の)余暇の過ごし方はどうなっているのか？
- ・精神障害者の場合、「不安」に対する支援はありますか？
- ・精神の場合は特に、居場所に出向くより個別の対応が必要だと思うが、訪問型の支援が充実を望むところであるが、この事業において甲賀の取り組みで精神障害者への支援の工夫はありますか？
- ・福祉の情報を利用者に届けるにはどうしたらよいですか？
- ・行動障害の人を受け入れてくれる短期入所先が少ないが、例えば拠点事業を絡めて、行動障害の方を受け入れられたら加算が付くとか、支援者に講座受講生がいれば加算が付く等、金額が高い報酬が受けられるような制度が今後も進むのか聞きたい。
- ・具体的な対応事例。地域の支援関係者との連携をどのようにされているか。センター職員体制や業務分担と勤務シフト。運営費の状況や課題。
- ・どんな人も自由に集まれる屋内施設、自分のしたいことに出会い、人との出会い、フリーで経験が重なられるような環境とは、そんなところありますか？



「甲賀地域ならではの」の 地域生活支援拠点等の整備

< 甲賀地域障害児・者地域自立支援協議会 >



にしやえん

甲賀市



ぼんぼこちゃん



湖南市

甲賀地域(湖南省・甲賀市)の概況

湖南省・甲賀市2市からなる人口約15万人の福祉圏域である。

近江学園をはじめ障害児・者の援護に関しては50年を超える歴史を持つ児童・成人の入所施設があり、また昭和30年代より信楽では「民間下宿」が運用され障害のある人が「地域で働き暮らす」取り組みが進められてきた。これら知的障害児・者に対する援護に先駆的に取り組んできた地域である。

平成に入ってからには圏域の関係機関で構成する「ふれあい甲賀をみんなで進める会」を軸に就労支援や余暇支援などの取り組みを進めてきた。

平成7年に信楽青年寮がコーディネーター事業を受託したことから「甲賀郡サービス調整会議」を設置して、圏域の課題を関係機関全体で協議する場を設け「一人の不安を一人だけの不安にしない」地域づくりに着手した。

また平成6年より信楽青年寮が私的契約による「レスパイトサービス」を開始し、「必要な時、必要なサービスを」届けはじめた。

平成7年には甲賀郡7町で「心身障害児・者ホームヘルプサービス」の運用(委託先は信楽青年寮)を始め、公的な在宅サービスを始める。

さらに平成8年には全国に先駆けて「24時間対応型在宅福祉サービスモデル事業」の委託を滋賀県及び甲賀郡7町より受けて、ホームヘルプサービス事業とデイサービス、相談支援事業を総合的に提供する拠点「オープンスペースれがーと」を設置し総合的な地域生活支援を開始。

以後、県の福祉計画に基づき地域特性を活かした生活支援センターが県内全域(7福祉圏域)に設置される。

甲賀地域における地域生活支援拠点等の整備プロセスについて

- 平成27年度に甲賀市・湖南省で策定された第4期障がい者福祉計画に「地域生活支援等拠点の整備」が謳われたが、具体的な取り組みに至らなかった。30年度からの第5期障がい者福祉計画において再度3年後を目途に整備計画を策定することになった。
- これを受けて30年8月に開催した自立支援協議会定例会議で部会長で構成するプロジェクト会議の設置を提案し承認を受ける。
- 30年11月よりプロジェクト会議を月1回の予定で開催する。
- 31年上半期を目途に「甲賀ならではの地域生活支援拠点等の整備」計画を取りまとめ、32年度に具体的な事業運用を目指す。
- 32年度は実施事業の状況の報告～検証を行い、必要な見直しなどもプロジェクト会議を核に行っていく予定。

甲賀地域の生活支援の概況

平成8年、滋賀県が総合的な地域生活支援を行う「拠点」として甲賀エリアに市町村と共同で「障害者生活支援センター」(初年度はモデル事業)を設置。

「甲賀郡障害者生活支援センター」は

相談とサービスの一体的な提供拠点として位置づける。

24時間対応型ホームヘルプサービス(本人支援+家族支援)

デイサービス(重度障害のある人の日中活動の保障)

ナイトケア(夜間の一時預かりと宿泊受け止め)

相談支援事業(コーディネーターの配置)

当時、短期入所が使いづらい(緊急時に機能しにくい)ため、生活支援センターに「ナイトケア」を位置づけて短期入所を補う仕組みとした。

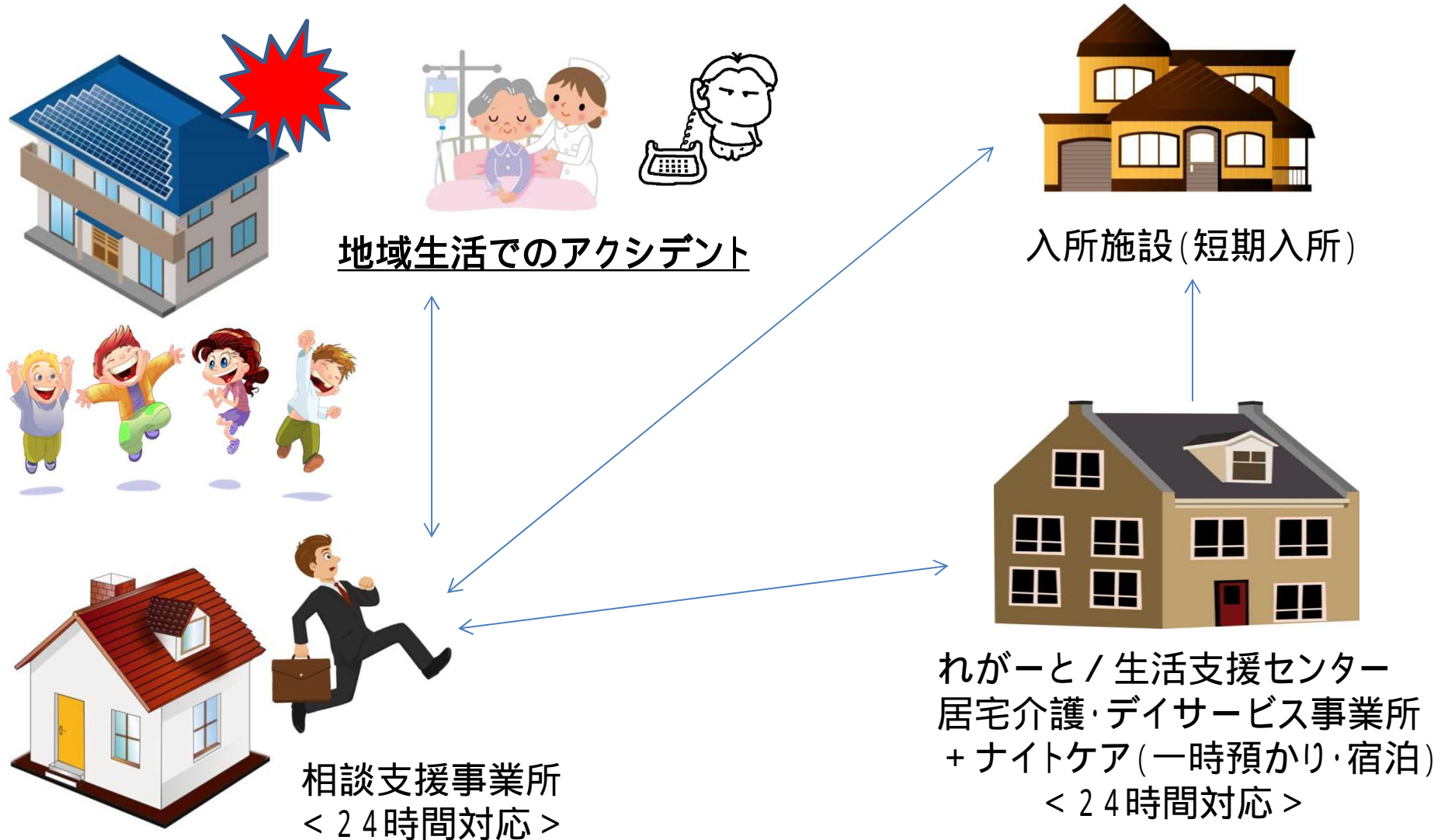
この事業拠点(れがーと)の設置により、甲賀圏域の在宅支援マネジメントは、

1. 時間単位のニーズはヘルパーの派遣
2. 宿泊を伴うニーズは短期入所
3. 緊急時の対応・短期入所が使えない場合は、ナイトケア事業
4. マネジメントは相談支援事業所が行う。

というスキームで動いている。

甲賀地域の事業スキームイメージ図(面的整備)

ワンストップで地域生活で起きたアクシデント(本人の怪我や介護者の急病など)に相談対応ができ、直ぐに対応できるヘルパーや一時預かりができる拠点(センター)を整備。



甲賀のケアシステムの評価と課題

< 評価 >

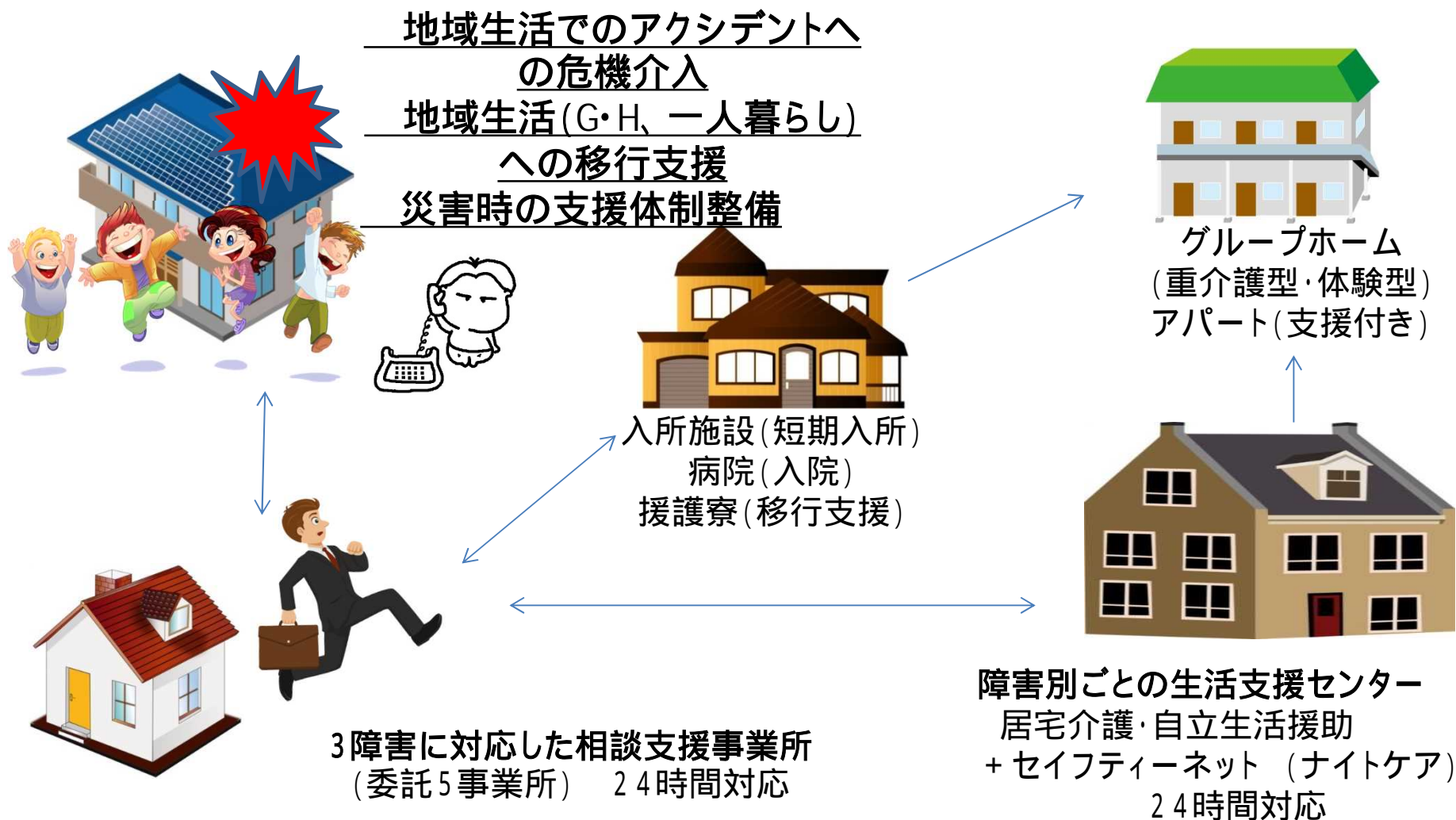
1. 圏域に多くの入所施設があり短期入所の定員枠も一定数確保されている。
2. 短期入所を補う「セイフティーネット事業」が県・市で担保されている。
3. 圏域5箇所の委託相談支援事業所が緊急時を含むマネジメントを担っている。
日常的な地域生活に対する危機介入については「面的な」ケアシステムにより担保されていると評価できる。

< 課題 >

1. 「生活支援センター」によるケアシステムは主に児童及び知的障害の人を対象としてきた。
2. 主たる介護者の死去や長期に渡る入院などにより当事者が一人暮らし状態になった場合、地域生活を継続できる24時間の支援体制を長期に渡って保障できない。
3. 拠点に求められること
3障害に対応したシステムを確立する必要がある。
既存の障害福祉サービス(ヘルパーなど)の利用が難しい発達障害のある人に対して機能できるしくみが必要。
新たな暮らしのマネジメント(グループホームなどの受け皿)については資源不足感がある。
災害時等における属性にとらわれない支援体制の構築が必要。
拠点を機能させるために必要な(24時間対応 / 緊急時の受け入れを支える)人材の確保と育成が必要。

「甲賀地域ならではの地域生活支援拠点等整備」に 求められる必要な機能の具体的な内容について(案)

障害児・知的障害に対応してきたケアシステムを3障害に対応できる仕組みにブラッシュアップすると同時に、特性に対応したグループホームや支援付き住宅への移行支援が行える仕組みを構築。



草津市障害児(者)自立支援協議会 研修会アンケート まとめ(抜粋)

(回答数 33人/55人)

1. 今回のテーマ「地域生活支援拠点整備」の事業の概要の理解について、いかがでしたか？

よくわかった	22	わかった	10	まあまあ	1	まだよくわからない	0
--------	----	------	----	------	---	-----------	---

2. 今回の研修はいかがでしたか？

大変良い	27	良かった	5	まあまあ	0	良くなかった	1
------	----	------	---	------	---	--------	---

3. 今回の研修会の内容で、良かった点または、よくなかった点を教えてください。

●研修の内容について

- ・地域生活支援拠点等の理解ができた(事業の5つの機能)
- ・通所事業所さんの善意で助けられている部分が多いので報酬、加算などがつくことが良い。こういう事業があると、心強くやり甲斐につながる。励まされました!
- ・緊急時の対応の選択肢の広がり。
- ・一事業所だけが担うことがないよう拡がってほしい。
- ・支援者としても、「緊急時にとにかくここに相談して」というところがあるのは理想的だ拠点マネージャーという機能の存在を知った。
- ・求めている取り組みや考え方が聞いてよかった。
- ・緊急時にどのように対応すればよいのかという流れをみせていただくことができて、すごくよかった。放デイ、児発の事業をしているので、そこまで利用することはないかもしれないが「知っている」というのは、とてもよい事であると思った。
- ・甲賀と比べて草津市の評価と課題を知りたいと思った。
- ・草津市として、どのような拠点センターが作れるのか、運営していくのか、どのように検討しているのか知りたい。SS先やGH体験入所先の少なさについて、どのように解消していくのか?
- ・圏域で整備が進むよう草津市からの発信をお願いします!
- ・計画相談員のついていない方の緊急時の対応や協力体制は、緊急時を想定した連絡先相談先を確認し情報共有しておく必要性をあらためて感じた。

●全体的なことについての意見

【若い職員の研修場所】

職場の職員がいつも参加していますが、上の方がいつも参加しているため若者の学べる知る場が少なく、社内での共有も難しいのが現状です。若者がもっと学べる知る育成の場が欲しいです。

たくさんアンケートに、ご協力いただきありがとうございました。
その中の一部を抜粋いたしました。(事務局)

【全文】草津市障害児(者)自立支援協議会 研修会アンケートまとめ (回答数 33人)

1. 今回のテーマ「地域生活支援拠点整備」の事業の概要の理解について、いかがでしたか？

よくわかった	22	わかった	10
まあまあ	1	まだよくわからない	0

今回の研修はいかがでしたか？

よい研修だった	27	良かった	5
まあまあ	0	あまり良くなかった	1

2. 今回の研修会の内容で、良かった点または、よくなかった点を教えてください。

- ・甲賀の実状を聞かせていただき、草津との状況とのギャップを感じた。整備しなければならない課題が多かった草津市の姿を見た。特に入所施設の少なさ、グループホームなどの少なさ、相談支援事業所の少なさを感じた。緊急受け入れのできる施設をどう確保するのか、どうつなぐのか。また、拠点マネージャー的人材の育成も必要。
- ・草津市も検討していかなければいけないが、どこまで進んでいるか報告がなかった。
- ・地域生活支援拠点等、事業の必要な機能としての5つがよくわかった。
- ・具体的な話が聞けて勉強になった。報酬、加算などがつくこと、良いと思った。
(通史所事業所さんの善意で助けられている部分が多いので。)
- ・事例を交えて話してくださり、わかりやすかった。甲賀のことはよくわかったが、草津市ではどの辺まで進んでいるのか気になった。
- ・甲賀地域の地域生活支援拠点の仕組みや現状がよくわかり、色々なことを整備した上で出来上がっていることがよくわかりました。相談支援をしていて、その相談先に困るので、こういった場所があると心強いなと思いました。
草津市は現状どうなっているのか、私自身知らないことが多く、知ることができたらなと思いました。
- ・緊急時の対応の流れを知る事ができて、対応の選択肢が広がりました。
- ・事例を組み込んだ内容でしたので、事業への理解、流れがよくわかりました。普段支援する中でよくあることが、こうして評価されることは、支援者としても心強くやり甲斐に繋がります。個人や家族、一事業所だけが担うことがないよう国としてもしっかり事業所評価され、拡がってほしいと思いました。
- ・支援者としても、緊急時に”とにかくここに相談して“というところがあるのは、とても理想的だと思いました。そのためにも、支援者自身も常日頃から各関係機関との連携は重要なことであると思った。
- ・普段している対応に報酬をつける仕組みづくりは良いと思いました。
ひとりの支援者、ひとつの事業所に負荷がかかりすぎない重層的な体制は心強いと思います。
- ・甲賀市の具体的な取り組みや課題を知る機会となり良かったです。私の事業所(放デイ)は、軽度知的の児童が対象であるため、緊急といったケース(祖父母で対応できることが多い)がまだありませんが、拠点マネージャーなど相談の場があることを知り、地域全体で利用者を支えられる体制が整えられていることに
安心しました。
- ・具体的な仕組みや事例を聞く事ができよかった。草津でも仕組みとしてつくっていく必要をあらためて感じた。

- ・甲賀ならではのシステムなのだと思う。これは、同じ事を湖南地域、草津では難しい。でも、一歩近づけることができるような草津のシステムを考えていきたいと思う。
- ・先進地として検討を繰り返されながら今のシステムを作られたことと思います。すべては障害をお持ちの本人やご家族の安心のためのシステム作りであり、根底はやはりそこにあると思います。決して他人事ではなく、私達の事業の中でも身近に起こりうることだと思えます。草津市でもより良いシステム作り構築していく必要があると思えました。
- ・基幹相談支援センターの役割がよくわかった。草津市も前向きに働きかけて欲しいです。
- ・求めていた取り組みや考え方が聞いてよかったです。実践紹介は良かったが、この内容を活かす他の次第ではなかった。
- ・実際の事例などが聞いてよかったです。
- ・包括的ケアは、地道に努力していく事なしになし得ないと感じました。励まされました！
- ・地域支援生活の拠点を作ることの意味、システム体制を作る事で、スピーディーに対応できる。また、シンポジウムの開催で情報の共有ができていていること。何より、質を高めることの努力がずっと続けられる事が素晴らしいと感じました。
- ・具体的にお話ししていただいたので、わかりやすかったです。頑張っていきます。
- ・先にやっている地域のことを知れて、具体的にどう動いているかわかった。
- ・内容がとてもわかりやすく、初めて内容を聞いた者でもよく理解できた。「わかりやす。色々盛り込まない。初動は早く。やりながら問題解決していくのが大切だと感じた。
- ・自分自身が勉強不足で理解できていないところが、たくさんありますが、施設利用者さんの緊急時の対応については、普段からイメージをしておかないといけないと感じました。常日頃からの他機関、他施設との連携が大事だと思います。
- ・緊急時にどのように対応すればよいのかという流れをみせていただくことができ、すごくよかったです。放デイ、児発の事業をしているので、そこまで利用することはないかもしれないが「知っている」というのは、とてもよい事であると思った。
- ・草津市で、今現在の緊急事態時の対応は、関わって下さる事業所の方々の思いやりの心で、していただいている事だったのね・・・(早くそれに対しての支援費用支給の対応ができることを願います) → もしかして、もう支給できるようになっていますか？
- ・菅沼さんのお話はとても分かりやすかったです。甲賀地域が長年にわたり、継続的に取り組まれていることを、今回初めて知りました。
- ・よい地域で支える仕組みは必要だと思う。ひとつが抱えると解決できない問題になってしまうこともある。
- ・社会福祉協議会の障害福祉部会から参加しました。内容はよくわかりましたが、民生委員としてどうなのか？
- ・計画相談と拠点マネージャーがチームで緊急相談支援を〇〇している事がわかってよかったです。マネージャーの判断や支援を評価するため、運営委員会を設置しているのも重要なことと感じた。

3. 全体的なことでご意見。

- ・本来の福祉施設のすすむべき道を学べた。仕組についてもよく分かった。一人の障害のある人が地域で生活していくための整備を整えることの必要性を感じた。拠点づくり、困った時の第一報をするところがあるというのは素晴らしい。
- ・甲賀と比べて草津市の評価と課題を知りたいと思った。
- ・障害者の取り巻く支援者の連携が深まればと思います。
- ・ちらっとお話にもありましたが“緊急性”の捉え方は慎重に進めて頂きたいです。当事者や家族からすると大きな問題も周囲からの視点がそれほどでもないという状況にならないことを望みます。
- ・日常的に支援者間の連携や情報共有を担当相談員の方を中心に行なっている方は、緊急時の対応や

協力体制がとりやすいが、特に相談員の担当がおられない方や日常のつながりがあまりない方については、緊急時を想定した連絡先相談先を事業所としても確認しておき情報共有しておく必要をあらためて感じた。

- ・改めて学び直しができありがたかったです。よい機会をつくっていただきありがとうございました。圏域で整備が進むよう草津市からの発信をお願いします！
- ・いろんな事業所さんが熱心に研修を受けておられること、いい事だと思います。草津にこういうシステムができれば、是非登録したいと思います。
- ・草津市として、どのような拠点センターが作れるのか、運営していくのか、どのように検討しているのか知りたい。SS先やGH体験入所先の少なさについて、どのように解消していくのか？
- ・短期入所先の確保が大事と思いました。
- ・知る事が出来てよかったです。草津市にも広がっていくと良いと思いました。
- ・事例はよくわかりました。これから、どういう風に地域で動いていくか明確に示してほしい。湖南圏域でどういうシステムが構築されてきているか、現状報告が欲しい。
- ・支援センターの困り事などで、今回の研修は各センターの方が多く、参加されているのかな？

4. その他、お気づきの点がございましたらご記入ください

- ・支援の必要な児童・生徒数は年々増加傾向にある現状で、緊急システムの構築の必要性を感じた。
- ・解答しやすいアンケートへ改善いただき、ありがとうございました。
- ・場の職員がいつも参加していますが、上の方がいつも参加しているため若者の学べる知る場が少なく、社内での共有も難しいのが現状です。若者がもっと学べる知る育成の場が欲しいです。
- ・今回の研修ありがとうございました。拠点マネージャーさんの存在などを聞かせていただき勉強になりました。しかし、理解したようで理解できていないことがたくさんあるのでは・・・と思います。また、勉強の機会を与えていただければと思いました。
- ・途中退席された方が、入り口近くで、ずっと電話されていて、その声が大きく研修の話が聞きにくかったです。
- ・私には関係ないとはいいませんが、こういう問題があると解かりました。

以上